地域のチカラを応援する遠野健康福祉の里のニュースレター

「つながる・支え合い」たより

令和４年12月号
（第１１号）
発行：遠野市健康福祉部
健康福祉の里

生活支援コーディネーターの活動から
地域で「つなぐ・つながる」⑮

住民による地域支え合い活動の普及・啓発
～ 支え合いコンファレンスの開催に向けて ～

丸ごと相談員小友地区担当　菊池　律子

▼二つのボランティア送迎が展開されています

新たな地域支え合いの実現に向けて、小友町ではふたつのボランティア送迎が実施されております。

具体的には、松田重機工業（株）様から、「地域のみなさまが安心して移動できるまちづくりとして少しでもお役に立てれば」と先導をきって始まり、小友町内ならどこでも可能。三カ月の試行期間とアンケートをもとに『住民の声』に反映しながらコロナワクチン接種、特定検診、期日前投票など鱒沢駅・宮守ホールへの運行に取り組まれております。

その一カ月後には、長野地域の集落（妻の神・下川原と大洞・荒谷と荷沢）がひとつとなり「長野地域ふれあい協議会」を組織し、高齢化による運転免許の返納に対する困りごとや不便さから来る生活負担を少しでもなくすために通院・買い物支援送迎バスを走らせました。

町民の皆さまから「いつでも利用できるようにしてもらっているのがありがたい」「農作業している家族の手を煩わせずにすむ」など、このことから共有する課題・問題の解決に向けたコンファレンス（意味＝協議・協議会・会議）を開催し住民が気兼ねなく利用し、支援サービスを継続するためのつながりを目指したいと思います。

長野地域ふれあい協議会

松田重機工業（株）

Ⅰ　支援委員会の設置

〇地区センターを中心に支援委員会の立ち上げ
〇各ボランティア送迎の実施内容
・松田重機工業（株）：運営は自費
　範囲：小友町内（郵便局、診療所、サロン・友人宅 他）
・長野地域ふれあい協議会：運営は集落機能強化加算を活用した扶助、社協の送迎バス
　範囲：遠野病院・市内医院、各スーパー
〇実施課題と成果報告会

つながる → ひろがる

Ⅱ　コンファレンスの開催

〇地域課題の共有と地域課題解決
〇双方の取り組み促進
・加算措置終了時に対応できるよう、支援サービスを継続していくための取組み
・運営費に係る助成金の確保
・相互における実施内容のつながり
〇福祉ネットワークの構築
・行政を含めた公的機関や民間機関などとの連携を円滑に進めていく

開催に向けて！
①移送支援の評価は、実施回数や利用者数等の数値的指標による行政評価だけでは測りきれるものではない。
②評価による住民ニーズを把握し、事業運営に反映させてい行くことが重要。
③事業を持続的に改善していくためにはＰＤＣＡ（計画・実行・評価・改善）サイクルも一つの手法と考える。

令和４年12月号もくじ　・・・　P1 住民による地域支え合い活動の普及・啓発（小友町）／P2～3 シリーズ福祉行政の今⑥「生きづらさ」を感じさせない社会を目指して（福祉課）／P4 あったかい居場所「ひだまりルーム」オープン（土淵町）

制作：遠野健康福祉の里福祉課（支え合い支援担当）・健康長寿課（生活支援体制整備事業担当）TEL 62-5111（代表）

あなたはあなたのままでいい―

「生きづらさ」を感じさせない社会を目指して

笑いのたねプロジェクト　後藤誠子さん講演会

後藤さんからは、多くの参加をいただいて、遠野に来てよかったと話されていました。

受付や講演会資料の配布などは自分たちで運営しています。

たんぽぽ会（遠野地区不登校を考えるの親の会）主催の講演会が十一月二十日(日)、市総合福祉センターで開催されました。（共催、市・市教育委員会・市社会福祉協議会）

講師である後藤誠子（ごとうせいこ）さんは、北上市在住で特定非営利活動法人「笑いのたねプロジェクト」の代表を務めていらっしゃる方で、誰でも安心して過ごせる居場所「ワラタネスクエア」の居場所支援者としても活動中です。

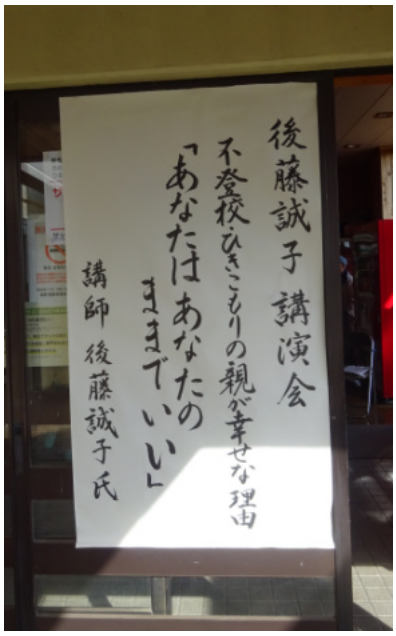
今回の講演会の開催に至ったのは、たんぽぽ会のみなさんが、ワラタネスクエアを見学したのがきっかけとのこと。「ぜひ遠野に来てお話しいただきたいという」たんぽぽ会の皆さんの願いに後藤さんが応えていただきました。

会場となった市総合福祉センターには、保護者の方や関係者が市内外から73人が参加。運営に携わったのはたんぽぽ会のメンバーを中心として、活動に賛同してくれる市内の方々、そして福祉の里福祉課、自立生活相談窓口のメンバーです。

後藤さんからは、講演会の開催を実現してくれた、たんぽぽ会の皆さんに励ましとねぎらいの言葉をかけていただきました。

たんぽぽ会の多田代表は、講演会を終えて、会員はそれぞれの役割以上のことをしてくれたと思います。また、参加してくださった皆さんからの心のこもった感想をたくさんいただきましたと振り返っていました。

（右）看板などもスタッフの手作りで。
（下）当事者であり、たんぽぽ会の会員である「ふらっとん」さんによるポエムなどの作品展示も行われました。



講演会から

今から十二、三年前に「二男が高校一年生の夏休みのある日に、突然登校できなくなった・・・。」から、このお話が始まります。

母親である後藤さんは、母親の立場として、「このまま学校に行かなくなったらどうしよう」という不安から、何とか学校に行かせようとしましたが、うまくいきませんでした。

ちょうど大学の夏休みで帰省していた長男がしばらく親切に二男に接していましたが、徐々に二男に対してイライラし始めたところで、後藤さんは、自分自身が長男をここまでさせてしまったことに気づき、二男への接し方について考えを改めるようになります。

それからは、二男を責めることを辞め、二男の考えていることを探るために、かかわりを続けていきます。結局、高校は無事卒業し、その後も進学のために上京した先でもさまざまな出来事があったそうですが、二男と向き合いながら解決につなげ、今は一緒に暮らしていらっしゃいます。

後藤さんは、子どもとのやり取りの中で、「『親の会』に対して、「私はそこまでではない」という気持ちがあり足が向かなかったが、自分一人では何も出来なければ悩み続けるだけなので、お悩みのことを、ぜひ親の会へつなげてほしい」とお話していました。

外に出て、いろいろな人と出会い、相談し、見聞きしながら、「余裕もって余裕で子供に向き合う」ことと、「やさしくあきらめる」ことが必要。また、親子であっても考えは一緒ではない、違う考えを持った一人の人間であるということ」や、「「あなたはあなたのままでいい」とは、(不登校を)否定されるということを排除していくことにつながる。今は、多様化の時代であり、生きづらさを解消するためには、社会の側(がわ)の意識が変わっていかなければならない。」また、「親のケアが大事。家族が元気になることで子どもが元気になる」と考えているとのこと。

現在は、北上市にある支援をしない居場所である「ワラタネスクエア」を運営していらっしゃいます。「私たちの取り組みが広がっていかないとギャップがますます生じることになるのではないかと考えています。」とお話していました。

▼不登校・ひきこもり支援の状況について

不登校・ひきこもりの人と家族への支援について市内の状況と県内の状況をまとめてみました。現在では、県内各地域において支援団体が立ち上がっている動もがあります。

▼かりん教室（適応指導教室）

学校に通う事が出来なくても学習指導や教育相談を受ける教室です。参加した日を学校に出席した日数とすることができるそうです。（かりん教室への通級の申し込みは、在籍する学校を通じて行うことになります。）

※教育委員会より

▼たんぽぽ会（遠野地区不登校を考える親の会）

こどもの不登校のことで悩みを抱えている保護者や会の趣旨に賛同してくれている方々の集まりです。

定例会　毎月第二木曜日（午後）・毎月第三月曜日（夜）

（問い合わせ先）
たんぽぽ会　多田代表
電話・ＦＡＸ　六二―六一八六

▼フリースペース「ふらっと」

日常生活の中でやりにくさ、生きにくさを感じている人が息抜きできる居場所です。

定例会　毎週月曜日（年末年始を除く）

（問い合わせ先）
市自立生活相談窓口
電話六八―三一九四

ひきこもり支援のための居場所設置市町村及びひきこもり支援団体の状況

（提供元　県障がい保健福祉課）

Ⅰ　ひきこもり支援のための居場所設置市町村

（一）ひきこもり支援のための居場所がある市町村

盛岡市、宮古市、大船渡市、北上市、久慈市、遠野市、一関市、陸前高田市、釜石市、奥州市、岩手町、矢巾町、岩泉町、軽米町、野田村、洋野町（16市町）

（二）（一）のうち、市町村による設置（委託含む）

北上市、久慈市、遠野市、一関市、陸前高田市、奥州市、岩手町、矢巾町、軽米町、洋野町（10市町）

Ⅱ　ひきこもり支援を行う民間団体

（市町村社協を除く）※○印は居場所設置あり

【支援団体】

○認定ＮＰＯ法人　岩手県青少年自立支援センター「ポランの広場」（盛岡市）
○ひきこもり支援プラザ　“ゆきわり”（盛岡市）
○もりおか若者サポートステーション（盛岡市）
○非営利活動法人みやこ自立サポートセンター（宮古市）
○みやこ若者サポートステーション（宮古市）
○地域活動支援センター星雲（大船渡市）
○ワーカーズコープ北上　笑いのたね事業所　ワラタネスクエア（北上市）
○一般社団法人　ＣＯＣＯ―ＡＲＵＢＡ（北上市）
○特定非営利活動法人サロン「たぐきり」（イルカの会）（久慈市）
特定非営利活動法人　レスパイトハウス・ハンズワークハウス雲（一関市）
医療法人　のんびりさくらクリニック（奥州市）
○ＮＰＯ法人クチェカ（岩泉町）
○地域密着型特別養護老人ホーム結の里（野田村）
○特定非営利活動法人風花（野田村）
特定非営利活動法人エンパワメント輝き（洋野町）

生活支援コーディネーターの活動から

地域で「つなぐ・つながる」⑯

あったかい居場所「ひだまりルーム」オープン

～ コロナ禍だからこそ、つながりを ～

丸ごと相談員土淵地区担当　阿部　弘恵

▼誰でも集える「地域の居場所」をつくりたい

地域で誰もが集える居場所として、地域活動支援センターと連携し、今年の七月から土淵地区センターで出張地活in土淵（お茶会）を始めています。

丸ごと相談員として活動をしていると、障がい者手帳を持っていても何のサービスも利用しておらず、家族以外の人との交流はほとんどない。外出の機会も病院や買い物程度しかないなく親が元気なうちは何とか生活できるが、その後はどうなるんだろう…。いざというときに心配を抱えるのであれば、その前に地域の人たちとつながってほしいという思いがきっかけとなったものです。

テーブルとイスだけ並べただけの自由に過ごせる空間としました。

▼地域の方からもご理解をいただきながら

始めたころは、まち協や民生委員さん、事前に把握している障がい者の方に出向いてお誘いをさせていただきました。地域の方も障がい者の方も毎回参加していただいています。また、地区センターに来る手段として「かっぱちゃん号」を運行していただいたり、地元の会社の方からはブルーベリーの収穫体験のお誘いもいただくなど、地域のご理解をいただいております。

喫茶スペースも自分たちで運営します。

▼「ひだまりルーム」として新たなスタート

始めてから半年が経ち、これからは持続性を持たせた運営が求められてきます。このことから、地域の人、障がい者という枠にとらわれない、だれでも気軽に集えるあったかい居場所になるよう、みんなで「ひだまりルーム」と決めました。

住み慣れた地域でいつまでも自分らしく安心した暮らしを実現していくために、住民一人ひとりが暮らしの中で支え・支えられる地域づくりに少しでも尽力して行きたいと思います。

地活（地域活動支援センター）とは…

地域で暮らす障がい（身体・精神・知的）を抱えている方の日常生活や社会生活をサポートする支援機関です。

地域活動支援センターカムカムは、中央通りの市民交流サロン「ちょボラ」の中にあります。市民のみなさんの総合的福祉活動の拠点としても開放しています。お気軽にいらしてください。

編集後記

「つながる・支え合いたより」十二月号（第11号）をお届けします。

十一月十七日～十八日にかけて開催された「地域共生社会推進全国サミットinつるが」に参加してきました。

敦賀市は、人道の港と呼ばれる敦賀港があり、千九百二十年代のロシア革命により家族を失ったポーランド孤児や一九四〇年代の杉原千畝の「命のビザ」を携えた多くのユダヤ難民を受け入れた国内唯一の港であり、「人道の港」とされています。

杉原千畝の妻幸子の父は、遠野市出身とされており、千畝を支えた夫人が遠野に縁があったということに誇らしさを感じながらサミットに参加してまいりました。

（支え合い支援担当）

人道の港 敦賀ムゼウム

たよりのバックナンバーURL⇒⇒⇒　https://www.city.tono.iwate.jp/index.cfm/51,67504,276,html